

ごみ持ち帰り 空と陸で啓発

長年、行楽客のごみの放置が課題となっていた美濃市の長良川、板取川河川敷で23日、市を挙げた河川美化啓発事業「美濃市清流クリーンプロジェクト」が始まった。約50人が参加し、行楽客への直接の声かけに加え、ドローンでごみの持ち帰りなどを呼びかける活動を展開。空と陸で展開するユニークなプロジェクトが行楽客の注目を集めた。
(佐名妙予)

美濃市 長良川、板取川の美化事業スタート

ドローンを活用した啓発を行う参加者＝美濃市前野、長良川



ドローンで放送、声かけも

市と連携協定を結ぶドローン事業者「ROBOZ(ロボッツ)」＝恵那市＝の石田宏樹社長らが、約500人先まで音が届く高性能スピーカーを搭載したドローンを操縦。河川敷を飛ばし

ながら、事前収録した日本語と英語の呼びかけ音声を流したほか、水難事故防止についてはポルトガル語を含めた3カ国語で警戒を呼びかけた。行楽客は上空を見上げ、放送に耳を傾けていた。

市シルバー人材センターの会員は、行楽客に直接声をかけて啓発したほか、日本たばこ産業(JT)岐阜支社の社員は携帯灰皿を配布して河川敷の美化を呼びかけた。

プロジェクトは河川の環境保全に取り組む美濃市地域おこし協力隊の小椋唯さん＝同市長瀬＝を中心に立ち上げ、市が事業を予算化。10月まで行う。現地を視察した武藤鉄弘市長は「川の利用を制限するのではなく、プロジェクトを通じて川を安全に楽しく利用してもらうことが大切」と話した。